西アフリカにおけるイスラ ムの がり（3/3）：カネム ボルヌ帝国、ハ

：

明:
サハラ以南の西アフリカ地域において、いかにイスラ ムが まり、 大な文明が かれ、 地民を多神教から唯一神への崇 へと いたかについて。第三部：カネム ボルヌとハウサ フラニ帝国の 史。

目: 事イスラ ムの 史

より: A ラフマ ン Ｉ ドイ教授

日02 Jan 2012

集日 02 Jan 2012

カネム ボルヌ帝国におけるイスラ ム

13世 のカネム ボルヌの 地は、南はチャド湖周 地から、北はフェザ ンにまで しました。今日、カネムはチャド共和国の北部に位置しています。1085 1097年の に支配した、カネムの 政者ウメ ジルミ によって、カネム ボルヌにイスラ ムをもたらしたムハンマド マニという学者を介し、初めてイスラ ムは受容されました。ウメ ジルミ は敬虔なムスリムになりました。彼は巡礼の旅に出ましたが、マッカに到着する前にエジプトで死去しました。また、アル＝バクリ はアッバ ス朝によって 清の危 に ったウマイヤ朝の避 民がバグダ ドから逃れて定住した土地がカネムであったと言及しています。［21，22］

カネムにおけるイスラ ムの がりにより、中央ス ダンではムスリムの影 力が し、中 のアラブ世界、そしてマグリブとの が かれました。ウメの息子、ドゥナマ一世（1092 1150）も巡礼を果たし、マッカへの三度目の旅ではスエズ 河に向かう途中のエジプトで王冠を授けられています。 史家イブン ハルドゥ ン（1406没）が言及するように、ドゥナマ二世（1221 1259）の 治期である1257年 には、チュニジアにカネム大使 が 置されました。それとほぼ 期を同じくして、マドラサ イブン ラシ クという宿泊施 付属の大学がカ

イロに出来ました。13世 末になると、カネムはイスラ ム学の中心地となり、著名な教たちが教 のためマリからカネムへとやってきました。13世 中 には、カネムは（アルジェリアのサハラ地 ）トゥアトとの外交　、そしてチュニスのハフサ朝との大使レベルのを きました。カネムの学者や 人たちは、非常に高水 の古典アラビア を くことが出来たと言われています。1391 1392年におけるカネム法廷の　 による手 から、その　を 出すことが出来ます。

史家イブン ハルドゥ ンは、ドゥナマ二世を「カネムの王、ボルヌの主」と呼んでいます。なぜなら、彼の帝国は西はカノ、 はワダイにまで 大したからです。ドゥナマ二世は人々によって神　されていたタリスマン（ムンニ、またはムニ ）を切り いたため、受の 代をもたらしたと言われました。彼はイスラ ムへの情 から、この「忌まわしき行 」を行ったのです。タリスマンは　的かつ神 なシンボルであり、彼は国民の多くから反感を ったのです。

14世 末、1476 1503年の を 治したアリ　ドゥナマ、（ 名アリ　ガ ズィ ）によって、カネム帝国の新首都がボルヌのニガザラガムに 置されました。繁 を めたこの首都は、1811年まで存 しました。アリ はイスラ ムを　させ、イスラ ム 学の学 に没 しました。彼はイマ ム ウマル マスランバを れ、イスラ ム法も学 しました。また彼は自らの模 によって、 族や首たちの妻を四人までに制限するよう 得しました。

ボルヌのイスラ ム化は、マイ イドリ ス アル マ（1570 1602）の 代にさかのぼります。私たちは、年代　者のアフマド ブン ファルトゥワを通して彼のことを知ります。9年 に渡る治において、彼はマッカへ巡礼し、そこにボルヌからやってくる巡礼者たちのために易宿泊所を建てました。彼はイスラ ムの 践を　させ、人々にそれらを遵守させました。また、彼はカ ディ 法廷を 立し、 来の　法に代わってイスラ ム法を 入したのです。また彼は、既存の で出来たモスクを 瓦のモスクとして建て替えました。

1810年、マイ アフマドの 代にボルヌ帝国の 光は 焉を迎えましたが、イスラ ム学 の中心地としての重要性は存 したのです。

ハウサ フラニにおけるイスラ ム

ハウサ建国に し、カネム ボルヌに移住したベグ出身のバヤジダ（バヤズィ ド）にまつわるハウサの があります。当 のボルヌにおけるマイの 政者はバヤジダを 迎し、自分の娘を娶らせましたが、彼の追 者の 数からは略 を受けたため、彼は妻と共にマイを れ、ガヤ マイ カノに辿り着き、カノの金匠に を造らせました。 では、井 からの水の汲み上げを阻んでいた大蛇をバヤジダは し、カノの人々を助けたことになっています。そして、ダウラと呼ばれた女王が感 の 持ちとして彼と 婚したとされます。バヤジダはこの婚からバオと名付けられた子供を授かり、その バオにはビラン、ドクラ、カツィナ、ザリア、カノ、ラノ、ジェビルと名づけられた7人の子供ができ、彼らはハウサ国の 者になったとされます。この の信 性はどうあれ、ナイジェリア北部のハウサ とその文化がいかに始まったかという 明が みられています。

イスラ ムは14世 にハウサの土地に まりました。およそ40人のワンガラワ 民たちが、アリ ヤジによる1349 1385年のカノ 治 代にもたらしたとされています。モスクが建 され、アザ ン（礼 始の呼びかけ）を行うムアッズィン（呼びかけ人）、そして宗教裁定を下す裁判官が任命されました。ヤァク ブという 政者の 治期（1452 1463）には、あるフラニ人がカノへと移住し、イスラ ム法の 物を 介しました。ムハンマド ルムファの 治期（1453 1499）になると、イスラ ムはカノにおいてしっかりと根ざしていました。彼の 治期にムスリム学者たちはカノを れましたが、一部はイスラ ムを 道するためトンブクトゥからも したのです。

ムハンマド ルムファは、政策についてムスリム学者たちの指 を仰ぎました。彼こそが、著名なムスリム神学者アル＝マギッリ が15世 にカノを れた に、イスラ ム政治についての本を くよう求めた人物でした。その本は名高い名著であり、「君主の 」と 打たれています。アル＝マギッリ は にカツィナへと出向き、そこは15世 における学 の地となりました。神学 が 源学 などを携えたトンブクトゥのサンコレ大学の学者たちも同 にそこを れていました。13世 には、ムハンマド ダン マリナや、ムハンマド ダン マスィナ（1667没）などといった、今日も著作の残されている 地出身の学者たちをカツィナは 出し

ています。

シェイフ ウスマ ン ダン フォディオ、また彼の兄弟アブドッラ 、そしてその息子ムハンマド ベロによる文学作品は、18世 末におけるハウサ フラニの混合主 的 践について 述されています。ウスマ ン ダン フォディオによる1904年の は、シェイフによってビドア アッ＝シャイタ ニ ヤ（ 魔の宗教革新）と呼ばれた混合主 を排除するためのイスラ ム 主 として 介されました。

アフリカにおけるイスラ ムの まりは、その一部がここで述べられたように、 史的、地理的、心理的な部分、またムスリム共同体の分布などの多くの要素がからんでいました。アフリカにおける最初の出 以来、イスラ ムは 大し けて、その当初から 地の学者たちは皆アフリカ人でした。イスラ ムはアフリカに根ざした宗教となり、そこにおいて多 多 な影 を与えてきたのです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/302

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。